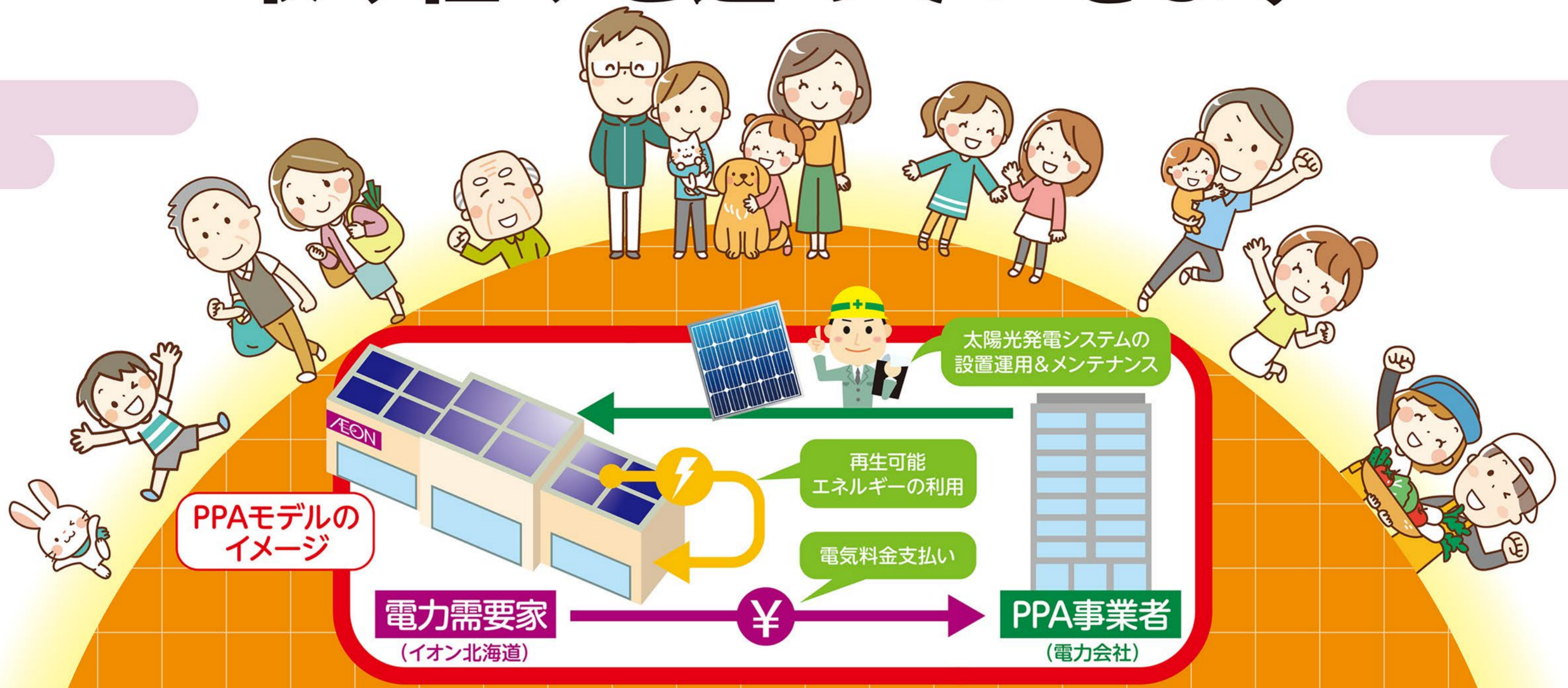


脱炭素社会の実現に向けた 取り組みを進めていきます



PPAモデルを採用した太陽光発電システムの再エネ設備を マックスバリュ1店舗とザ・ビッグ1店舗に新たに導入

イオンは、2030年までに日本国内の店舗で使用している電力のうち、50%を再生可能エネルギーに切り替える目標を定めています。また、2040年を目途に「店舗で排出するCO₂等を総量でゼロにします。」という目標の達成を目指しており、当社においても同様の目標を掲げています。

当社は、その実現に向けた取り組みの一環として、2021年12月に「マックスバリュ沼ノ端店(苫小牧市)」「マックスバリュ弥生店(苫小牧市)」の2店舗にPPA (Power Purchase Agreement: 電力販売契約) モデルの導入を開始しました。

PPAモデルとはPPA事業者が電力需要家の敷地や屋根等のスペースを借りて太陽光発電システムを設置し、そこで発電した電力を電力需要家に販売する事業モデルのことで、店舗は設置した太陽光パネルから発電された電力を自家消費分として購入・活用しています。

そして、2022年度は新たに、「マックスバリュ日新店(苫小牧市)」と「ザ・ビッグ鳥取大通店(釧路市)」にこのモデルを導入しました。

当社は今後も脱炭素社会の実現を目指して、店舗へのPPAモデルの導入を推進していきます。

SDGsの
取り組み



SDGs(持続可能な開発目標)とは、持続可能な世界を実現するために国連サミットで採択された、2030年までの国際目標です。この取り組みによりSDGsの目標7、11、12、13、17の達成に貢献します。